

# アンケート調査結果の概要

資料 2

昨年度に実施したアンケート調査結果の主なポイントをまとめました。

## 1 みよし市「子ども・子育て支援ニーズ調査」調査結果報告書の要点

### 【就学前児童保護者】

- 主に子育て・教育を行っているのは「父母ともに」71%、「主にお母さん」28%、「主にお父さん」0.2%で、母親が中心となっている。(報告書 P.6)
- 子どもの面倒をみてもらえる人は、「日常的に親族(祖父母等)」29%、「緊急時等に親族」55%、「いずれもない」15%。3割の人が日常的に親族にみてもらえる一方、15%の保護者はみてもらえる人がいない。(P.8)
- 子育てについて気軽に相談できる場所・人は「いる」が92%で、内訳は「祖父母等の家族」86%、「友人・知人」72%、次いで「子育て支援センター」22%。(P.10)
- 平日の教育・保育事業の利用状況は、「利用している」58%。施設別では「幼稚園」43%、「幼稚園の預かり保育」6%、「認可保育所」44%、「認定こども園」0.2%。利用日数は週「5日」、利用時間は1日「6時間」が最も多い。一方、利用者の希望利用日数は週「5日」、希望利用時間は「7時間」が最も多く、現状より長い利用が望まれている。(P.12)
- 平日の教育・保育事業の利用希望は、施設別では「幼稚園」42%、「幼稚園の預かり保育」31%、「認可保育所」45%、「認定こども園」13%で、「幼稚園の預かり保育」と「認定こども園」の希望が現状を大きく上回っている。(P.17)
- 子育て支援サービスの利用状況は、「子育て情報ナビ みよびよ!」の認知度が36%と比較的低く、利用経験も21%と低いが、利用意向は44%ある。一方、「ファミリー・サポート・センター」と「子育ての相談窓口、子ども相談電話」は利用経験が1割未満と低い。(P.21)
- 幼稚園や保育園などを平日以外に定期的に利用したい人は、土曜日が23%、日曜日・祝日が21%、夏休み・冬休み等の長期休暇中が61%と、長期休暇中の希望が高い。(P.23)
- 子どもが病気になった時に仕事を休んだことがある親で、病児・病後児保育施設等を利用したい人は42%。(P.29)
- 親の私用等の理由で不定期に幼稚園や保育園の一時預かり等を利用したことがある人は13%。利用しなかった理由は、「特に利用する必要がない」(75%)以外では「手続きなどサービスの利用方法がわからない」21%、「自分がサービスの対象になるのかがわからない」17%が高く、制度の認知度が大きく影響している。また、今後「利用したい」人は44%となっている。(P.32)
- 宿泊を伴う一時預かりを経験した人は18%で、そのうち親族・知人にみてもらった人は90%、短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用した人はなしとなっている。(P.35)

- 小学校就学後の放課後の過ごし方について、放課後児童クラブの利用希望者は 42%。利用希望日数は週「5日」が最多となっている。平日以外での利用希望は、土曜日が 35%、日曜日・祝日が 37%、長期休暇中が 57%と、長期休暇中の希望が高い。(P.37)
- 育児休暇の取得状況は、「取得した(取得中である)」のは母親で 38%、父親で 2%。取得していない理由は、母親は「退職した」50%、「職場に取りにくい雰囲気があった」17%、父親は「職場に取りにくい雰囲気があった」「仕事が忙しかった」36%、「制度を利用する必要がなかった」33%が高い。(P.41)
- 母親の育児休業取得後の職場復帰は、「復帰した」60%、「育児休業中に仕事をやめた」10%。(P.42)
- 母親の育児休業の実際の取得期間は「1歳～1歳5か月」49%が最多で、希望の取得期間は「2歳～2歳5か月」26%が最多。“2歳以上”をみると実際が 17%、希望が 48%で、2歳以上までの取得希望が高い。(P.43)
- 育児休業から職場復帰した人で短時間勤務制度を利用した人は母親で 66%、父親で利用者なし。母親の利用しなかった理由は、「職場に取りにくい雰囲気があった」50%、「短時間勤務すると給与が減額される」32%、「職場に制度がなかった」30%、「短時間勤務すると保育園の入所申請の優先順位が下がる」25%などとなっている。(P.45)
- 幼児教育・保育の無償化によって子どもの数を増やしたい人は 44%。無償化による利用希望サービスの変化については、「幼稚園及び幼稚園の預かり保育」が無償化前 6%に対し無償化後 18%と希望が高くなっている。(P.47)
- 市の子育て支援の満足度は、「企業・事業所などの子育て支援施策」が 13%と、他の施策に比べて低い。全体の満足度では、満足が 55%、不満が 17%と、満足が不満を大きく上回っている。(P.48)

### 【小学生児童保護者】

- 主に子育て・教育を行っているのは「父母ともに」66%、「主にお母さん」32%、「主にお父さん」0.6%で、就学前児童と同様に、母親が中心となっている。(P.51)
- 子どもの面倒をみてもらえる人は、「日常的に親族(祖父母等)」27%、「緊急時等に親族」52%、「緊急時等に友人・知人」17%、「いずれもない」15%。3割弱の人が日常的に親族にみてもらえる一方、15%の保護者はみてもらえる人がいない。(P.52)
- 子育てについて気軽に相談できる場所・人は「いる」が 91%で、内訳は「配偶者」82%、「友人・知人」70%、親「69%」、次いで「学校・幼稚園・保育園の先生」24%、「職場の人」21%。(P.53)
- 放課後児童クラブの利用者は 12%。現状の利用日数は週「5日」、利用時間は1日「2～3時間」、利用終了時間は「18時30分まで～19時まで」が過半数を占める一方、希望利用時間は1日「2～4時間」、希望利用終了時間は「18時30分まで～19時30分まで」がほぼ過半数となっており、希望の方が1日の利用時間が長い。(P.54)

- 放課後児童クラブの利用者の平日以外での利用希望は、土曜日が 18%、日曜日・祝日が 29%、長期休暇中が 95%と、長期休暇中の希望が高い。(P.57) また、現在利用していない人の利用希望は、平日 15%、土曜日 19%、日曜日・祝日 17%。(P.61)
- 子どもが病気になった時に仕事を休んだことがある親で、病児・病後児保育施設等を利用したい人は 23%。(P.65)
- 宿泊を伴う一時預かりを経験した人は 11%で、そのうち親族・知人にみてもらった人は 84%、短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用した人は 1%。(P.67)
- 市の子育て支援の満足度は、「企業・事業所などの子育て支援施策」が 11%と、他の施策に比べて低い。全体の満足度では、満足が 50%、不満が 17%と、満足が不満を大きく上回っている。(P.68)

## 2 みよし市「子どもの生活状況調査」調査結果報告書の要点

### 【保護者（就学前児童、小学生児童、中学生児童）調査】

- 子どもに大学までの教育を「受けさせたい」親は、就学前 81%、小学生 80%、中学生 74%。「経済的に受けさせることは難しい」親は、就学前 8%、小学生 9%、中学生 13%。（前 P.3、小 P.40、中 P.99） ※報告書参照部分は、前=就学前、小=小学生、中=中学生をそれぞれ示す。
- 子育て中の心の動きで“あてはまる”との回答は、「つつい子どもにあたってしまった」は就学前 57%、小学生 70%、中学生 63%。「しつけのためよく大声で怒鳴ったり、よく厳しく叱った」は就学前 53%、小学生 67%、中学生 59%。「子どもを育てるために、自分がやりたいことを我慢している」は就学前 55%、小学生 50%、中学生 45%。（前 P.5、小 P.46、中 P.105）
- 保護者と地域との関わりについては、地域行事への参加は、就学前 44%、小学生 77%、中学生 67%。保育・教育機関の行事への参加は、就学前 62%、小学生 98%、中学生 93%で、小学生保護者で最も多く関わっている。また、生活上の困難解決のために地域で相互協力をしていると感じる人と感じない人の割合は、就学前で 12%と 42%、小学生で 16%と 33%、中学生で 17%と 33%と、いずれも感じない人の方が高い。（前 P.6、小 P.47、中 P.106）
- 現在の暮らし向きを“苦しい”と感じる親は、就学前 20%、小学生 20%、中学生 25%で、いずれも“ゆとりがある”と感じる親の割合を上回っている。（前 P.13、小 P.54、中 P.111）
- 経済的な理由で衣料品が買えなかったことがある親は、就学前 9%、小学生 9%、中学生 14%。（前 P.14、小 P.55、中 P.112）
- 母親の就労状況は、フルタイム就労は就学前 34%、小学生 21%、中学生 24%。パート・アルバイトは就学前 18%、小学生 52%、中学生 55%。無業は就学前 47%、小学生 26%、中学生 16%となっており、子どもの年齢が高くなるほど母親の就労率が高い。（前 P.16、小 P.57、中 P.114）
- 母親のパート・アルバイト就労者で、フルタイム就労への転換希望があり実現の見込みもある人は、就学前 10%、小学生 5%、中学生 5%。母親の無業者で 1 年以内の就労希望のある人は、就学前 21%、小学生 30%、中学生 27%で、そのうちパート・アルバイトの希望者は、就学前 89%、小学生 89%、中学生 96%であり、パート希望者の希望利用日数と時間は、就学前が週 4 日・1 日 4 時間（月 64 時間）、小学生が週 3 日・1 日 5 時間（月 60 時間）、中学生が週 3～4 日・1 日 5 時間（月 60～80 時間）が最も多い。（前 P.20、小 P.61、中 P.118）
- 父親の就労状況は、フルタイム就労が就学前 97%、小学生 96%、中学生 93%。（前 P.22、小 P.63、中 P.120）
- 世帯収入は、就学前は 500 万円台が 24%、次いで 600 万円台が 16%、小学生は 500 万円台と 600 万円台がともに 15%、中学生は 1,000 万円以上が 20%、次いで 700 万円台が 14%。（前 P.27、小 P.68、中 P.127）

- 児童扶養手当・特別児童扶養手当の受給者は、就学前 12%、小学生 10%、中学生 8%。公的年金の受給者は、就学前・小学生・中学生ともに 2%で、生活保護の受給者はいずれもなし。(前 P.28、小 P.69、中 P.128)
- 1か月の食費は、就学前は 3 万円台が 30%で最多、小学生は 4 万円台が 19%で最多、中学生は 5 万円台が 17%で最多と、子どもが大きくなるほど高い。(前 P.31、小 P.72、中 P.131)
- 学習塾や習い事等への支出は、就学前は 1 万円未満が 32%で最多、小学生は 1 万円台が 35%で最多、中学生は 2 万円台が 28%で最多と、子どもが大きくなるほど高い。(前 P.33、小 P.75、中 P.134)
- 子どもの生後の家庭の引越回数が 2 回以上である人は、就学前 7%、小学生 21%、中学生 22%。(前 P.33、小 P.75、中 P.134)
- 子育て支援サービスの認知度について、「制度を知らない」割合が高いのは、就学前が「民生委員」48%、「専門相談員等への相談」44%、小学生が「住宅費軽減等の援助」33%、「民生委員」30%、中学生が「住宅費軽減等の援助」28%、「民生委員」22%。(前 P.35、小 P.77、中 P.136)
- 「子ども食堂」に子どもを行かせたい親は、就学前 44%、小学生 36%、中学生 26%。いずれも、行かせたい理由は「たまには食事を作るのを休みたいから」が 5 割台、行かせたくない理由は「必要を感じないから」が 8～9 割を占めている。(前 P.36、小 P.78、中 P.137)

#### 【小学生児童調査、中学生児童調査】

- 自身の健康に対する評価は、小学生で“健康(元気)”が 89%、中学生で“良い”が 70%。(小 P.79、中 P.139)
- 平日の就寝時間が 22 時以降である子どもは、小学生 30%、中学生 88%。23 時以降である子どもは中学生で 40%。(小 P.80、中 P.139)
- 歯みがきをしない日がある、またはめったにしない子どもは、小学生 13%、中学生 5%。入浴をしない日がある、またはめったにしない子どもは、小学生 8%、中学生 2%。虫歯がある子どもは、小学生 14%、中学生 7%と、いずれも小学生の方が割合が高い。(小 P.80、中 P.140)
- 学校のある日の朝食を親と一緒に食べる割合は、小学生 62%、中学生 39%。ひとりで食べる割合は、小学生 17%、中学生 42%と、中学生での孤食が多い。(小 P.81、中 P.141)
- 学校の授業がわからないことがある子どもは、小学生 45%、中学生 63%。(小 P.85、中 P.150)

<以降、小学生は4～6年生のみ>

- 学校生活の楽しみについて、「授業を受けること」が「楽しみではない」子どもは、小学生 15%、中学生 27%。また、「先生に会うこと」が「楽しみではない」子どもは、小学生 16%、中学生 33%。  
(小 P.89、中 P.149)
- 下校後の勉強時間が1時間未満である子どもは、小学生 64%、中学生 58%。(小 P.90、中 P.150)
- 大学・大学院までの進学を希望する子どもは、小学生 49%、中学生 55%。(小 P.91、中 P.153)
- 「自分は大切な(価値のある)人間だと思う」子どもは、小学生 81%、中学生 64%。また、「自分の将来が楽しみだ」と考える子どもは、小学生 78%、中学生 66%。(小 P.92、中 P.154)
- 困った時の相談相手については、「親」は小学生 80%、中学生 68%、「先生」は小学生 50%、中学生 35%と、いずれも中学生の方が低い。一方、「友達」は小学生 61%、中学生 73%、「自分で解決する」は小学生 57%、中学生 80%と、いずれも中学生の方が高い。(小 P.93、中 P.155)
- 学校に行きたくないと思ったことがある子どもは、小学生 44%、中学生 52%。いじめられたことがある子どもは、小学生 19%、中学生 11%。いじめられている子を見たことがある子どもは、小学生・中学生ともに 26%。(小 P.94、中 P.156)

## 【追加集計】保護者の所得区分別、人数別（ひとり親・ふたり親）、学歴別クロス集計結果

小学生児童調査及び小学生児童保護者調査について、家庭の経済的な状況等により回答率に差がみられると思われる設問に対して、以下の3点を分析軸として新たにクロス集計を行った。

### ・【所得別】

世帯の所得から1人あたりの所得を算出し、以下の4区分に分類した。

所得区分Ⅰ：1人あたり122万円未満

所得区分Ⅱ：1人あたり183万円（区分Ⅰの1.5倍）未満

所得区分Ⅲ：1人あたり244万円（区分Ⅰの2倍）未満

所得区分Ⅳ：1人あたり244万円（区分Ⅰの2倍）以上

※平成27年国民生活基礎調査の等価可処分所得の中央値244万円と中央値の2分の1である貧困線の122万円を基準としている。（「子どもの生活状況調査」調査結果報告書 P.158 参照）

### ・【ひとり親・ふたり親別】

保護者の人数別（ふたり親の場合は保護者の就労状況別）に、以下の4区分に分類した。

ひとり親

ふたり親（ともにフルタイム就労）

ふたり親（フルタイム就労とパート就労）

ふたり親（一方が無職）

※「ふたり親（ともにパート就労）」は該当者が2人と少ないため、分析軸からは除外した。

### ・【学歴別】

保護者の最終学歴から、以下の4区分に分類した。

中卒と中・高卒：保護者の一方が中卒で、もう一方が中卒または高卒

ともに高卒：保護者がともに高卒

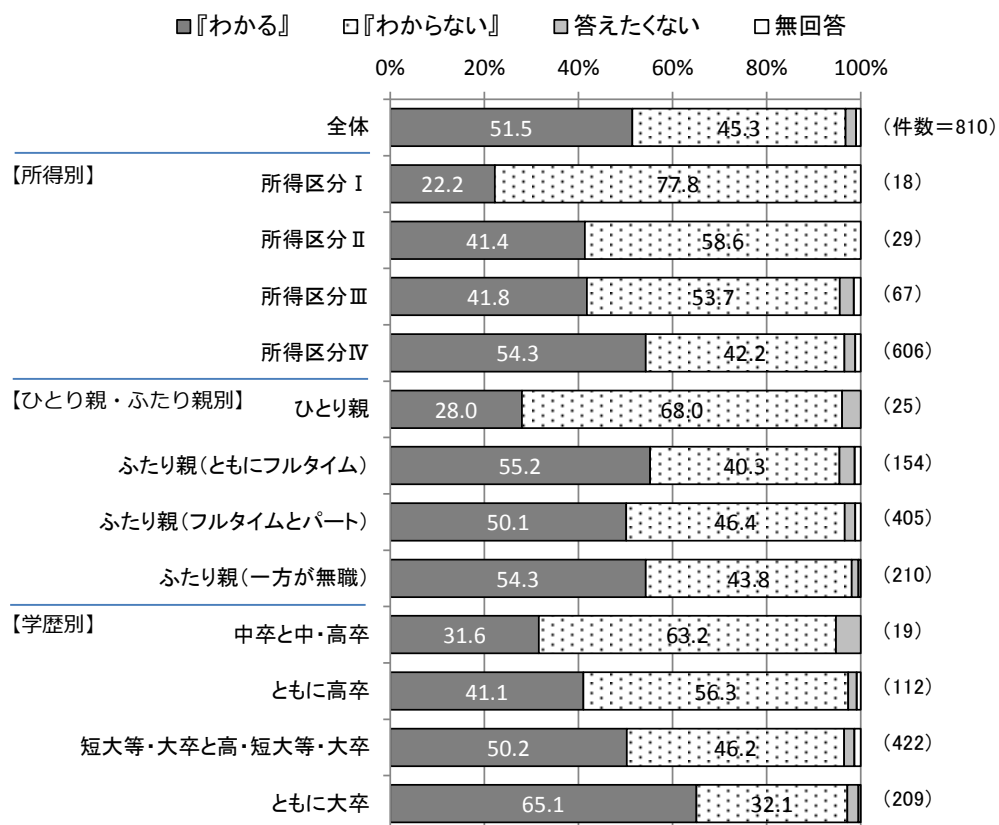
短大・専門・大卒と高・短大・専門・大卒：保護者の一方が短大・専門・大卒で、もう一方が高卒・短大・専門・大卒（「ともに大卒」を除く）

ともに大卒：保護者がともに大卒

クロス集計に対してはカイ二乗検定を行い、有意差があると思われる部分についてコメントした。

## 1 学校の授業がわかる割合（小学生児童：問 14）

- 学校の授業がわからないことがあるかについて、保護者の所得別で見ると、所得が低いほど『わかる』の割合が低くなっている。
- 保護者の学歴別で見ると、学歴が低いほど『わかる』の割合が低くなっている。



※『わかる』:「だいぶわかる」+「ほとんどわかる」

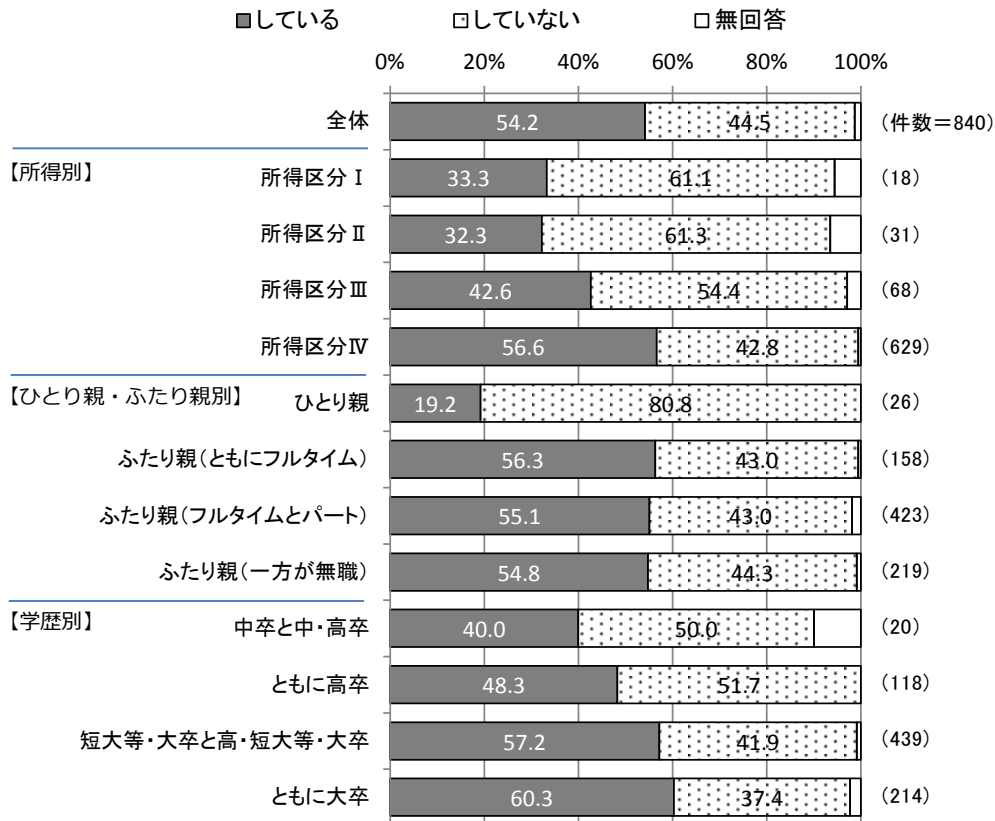
『わからない』:「いつもわからない」+「ときどきわからない」



## 2 習い事（学習塾・通信教育・家庭教師）をしている割合（小学生児童保護者：問5ウ）

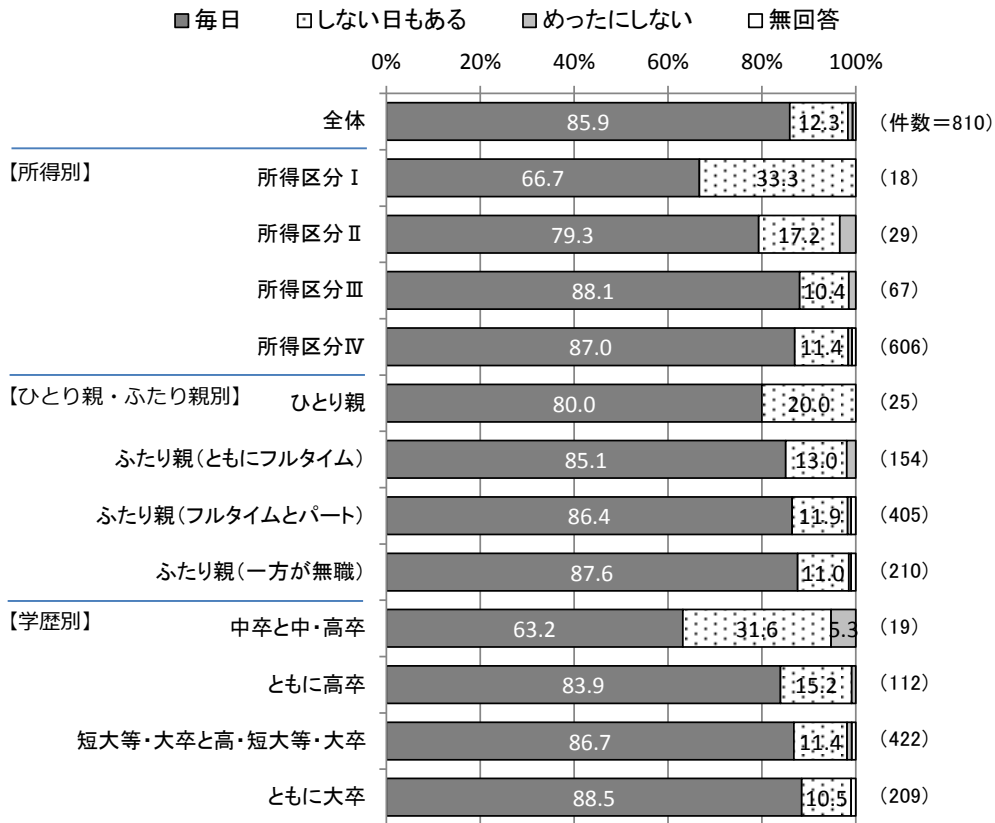
○習い事（学習塾・通信教育・家庭教師）をしているかどうかについて、保護者の所得別で見ると、所得が低いほど「している」の割合が概ね低くなっている。

○ひとり親・ふたり親別で見ると、ひとり親で「している」の割合が低くなっている。

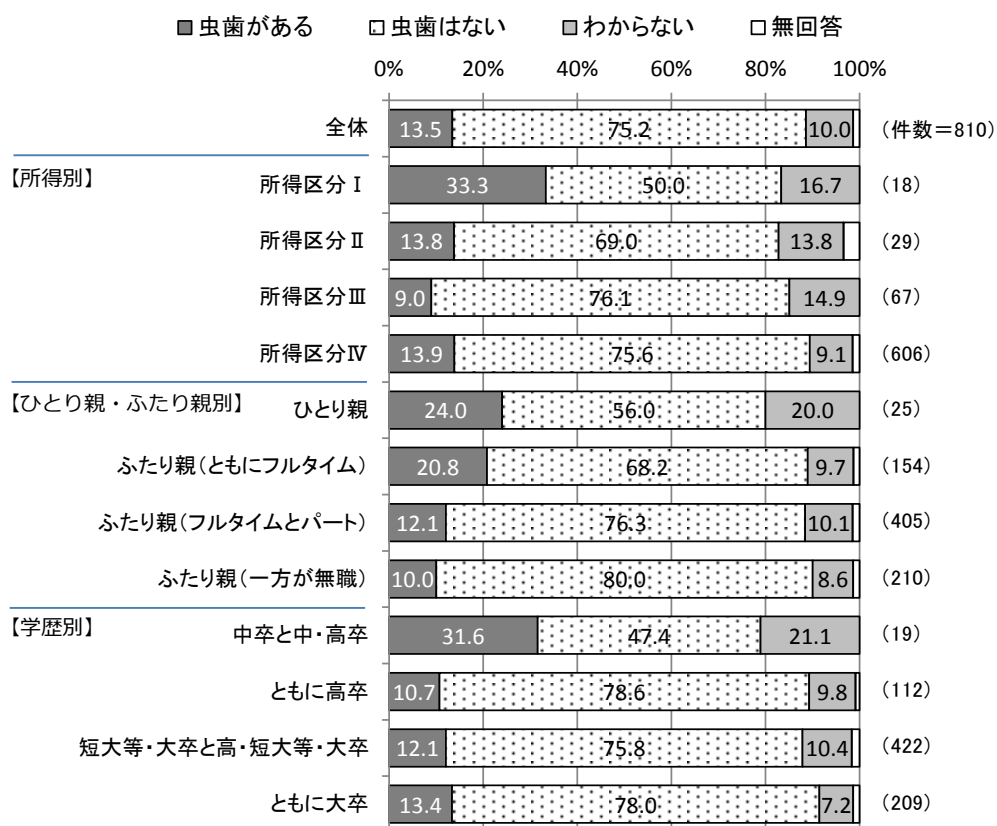


### 3 基本的な生活習慣（歯みがき・入浴を毎日する等）を守っている割合（小学生児童：問5ア、問6、問5イ）

○子どもの歯みがきの習慣について、保護者の学歴別で見ると、学歴が低いほど「毎日」する子どもの割合が低くなっている。

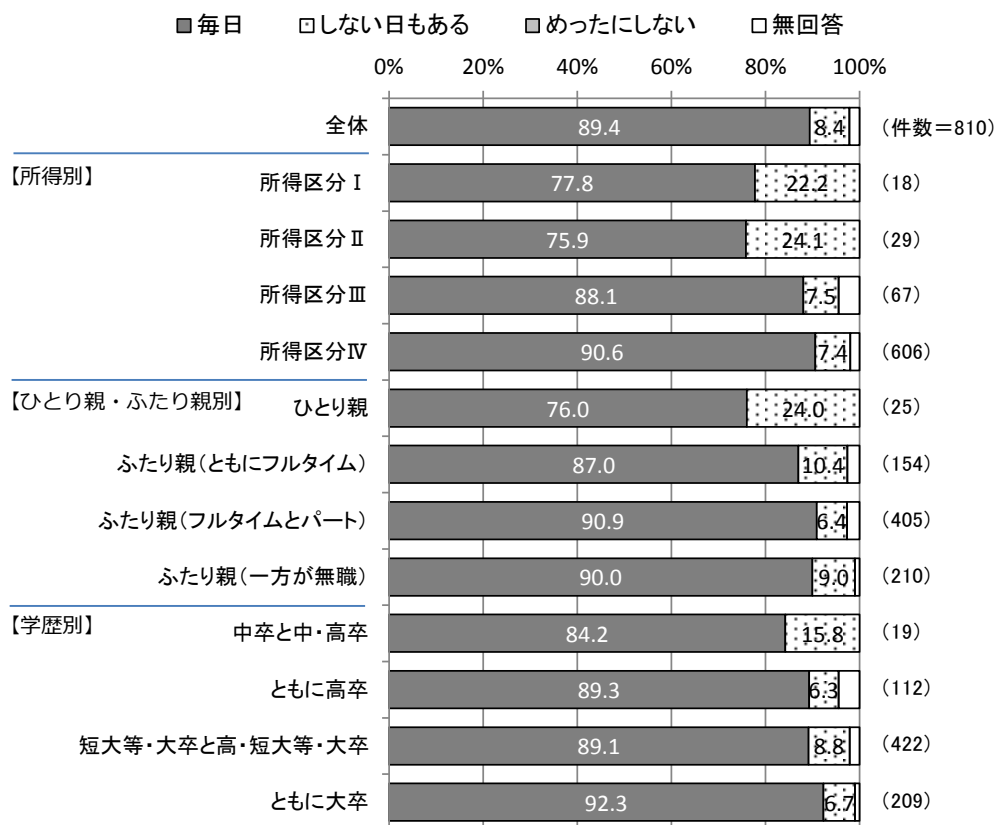


○虫歯の有無について、ひとり親・ふたり親別でみると、ひとり親で虫歯がある子どもの割合が高くなっている。



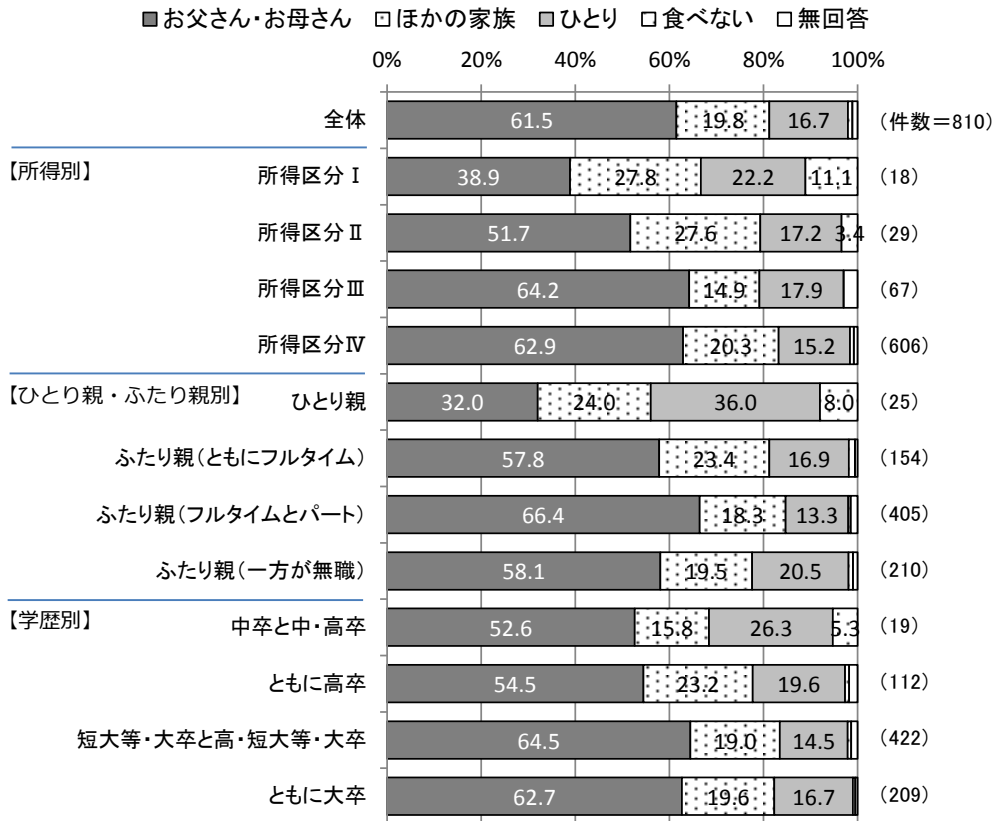
○子どもの入浴の習慣について、保護者の所得別で見ると、所得が低いほど「毎日」する子どもの割合が概ね低くなっている。

○ひとり親・ふたり親別で見ると、ひとり親で「毎日」する子どもの割合が低くなっている。



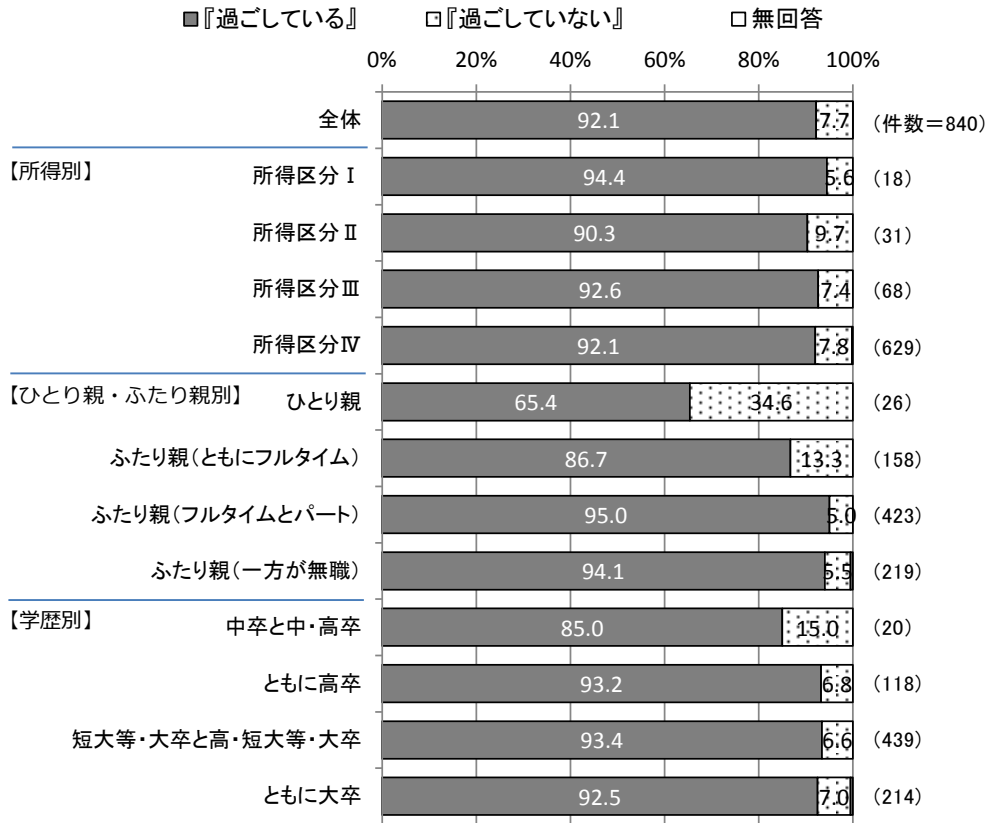
#### 4 学校のある日の朝食を親と一緒に食べる割合（小学生児童：問8 学校のある日 ア）

- 子どもが学校のある日の朝食を一緒に食べる人について、保護者の所得別で見ると、所得が低いほど親と一緒に食べる子どもの割合が概ね低くなっている。
- ひとり親・ふたり親別で見ると、ひとり親では親と一緒に食べる子どもの割合が低く、ひとりで食べる子どもの割合が高くなっている。



## 5 親と子どもが一緒に時間を過ごす割合（小学生児童保護者：問 12 イ）

○子どもと一緒に時間を十分過ごしているかどうかについて、ひとり親・ふたり親別でみると、ひとり親で『過ごしている』の割合が低くなっている。



※ 『過ごしている』：「よく過ごしている」 + 「過ごしている」

『過ごしていない』：「あまり過ごしていない」 + 「過ごしていない」

## 6 子どもの生後の引越回数が2回以上の割合（小学生児童保護者：問46）

○子どもの生後の引越回数について、ひとり親・ふたり親別でみると、ひとり親で「2回以上」の割合が高くなっている。

